

# 令和2年度

---

## 健康保険組合 決算見込状況について — 決算見込集計 結果報告 —

※本報告は、令和3年3月末時点で存在する1,388組合の決算見込数値を本会で集計し、その結果を『令和2年度 健康保険組合決算見込状況』として取りまとめたものである。

## I. 令和2年度決算見込 経常収支の状況

1. 経常収支の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.4
  2. 基礎数値及び財政指標・・・・・・・・・・・・・・・・ p.5
  3. 経常収入・支出の内訳及び拠出金負担割合・・・・・・・・ p.6
  4. 黒字930組合／赤字458組合の経常収支差引額・・・・・・・・ p.7
  5. 業態別にみた経常収支差引額の状況・・・・・・・・ p.8
  6. 業態別にみた標準報酬月額・標準賞与額の伸び率・・・・・・・・ p.9
- 【参考①】業態別にみた平均保険料率及び実質保険料率・・・・・・・・ p.10
- 【参考②】赤字かつ標準賞与額が大きく減少している業態の経常収支・・・・・・・・ p.11

## II. 新型コロナ特例猶予組合の財政状況

1. 新型コロナ特例猶予組合数及び特例猶予等未収額の状況・・・・・・・・ p.13
2. 特例猶予のある赤字30組合の業態別標準報酬月額・標準賞与額の伸び率・・・・・・・・ p.14

## 参考資料

- 【参考①】標準報酬月額と医療費の動向：2017～2021年度（健保組合分）・・・・・・・・ p.16
- 【参考②】令和3年度予算：経常収支の状況（令和3年4月22日公表資料）・・・・・・・・ p.17
- 【参考③】令和3年度予算：経常収支差引額（黒字・赤字組合）の状況（〃）・・・・・・・・ p.18

## I. 令和2年度決算見込 経常収支の状況

1. 経常収支の状況	p.4
2. 基礎数値及び財政指標	p.5
3. 経常収入・支出の内訳及び拠出金負担割合	p.6
4. 黒字930組合／赤字458組合の経常収支差引額	p.7
5. 業態別にみた経常収支差引額の状況	p.8
6. 業態別にみた標準報酬月額・標準賞与額の伸び率	p.9
【参考①】業態別にみた平均保険料率及び実質保険料率	p.10
【参考②】赤字かつ標準賞与額が大きく減少している業態の経常収支	p.11

# 1. 令和2年度決算見込（1,388組合）：経常収支の状況

- 令和2年度決算見込（1,388組合）の経常収支は、①経常収入：8兆2,956億円（対前年度比▲0.8%）、②経常支出：8兆4億円（同▲1.4%）で、収支差引額（①-②）は、2,952億円の黒字となり、黒字額は前年度に比べて454億円増加した。
- 黒字額増加の主な要因は、保険給付費：2,113億円（対前年度比▲5.1%）の大幅な減少であり、感染拡大下での受診控えによる医療給付費の減少が大きく影響した。加えて、新型コロナ感染拡大の影響を受け、保健事業費も181億円（同▲5.0%）減少した。
- 保険料収入については、前年度に比べて596億円（対前年度比▲0.7%）減少して8兆1,841億円となり、うち、273億円が新型コロナ特例猶予等未収額（対象96組合）となっている。

主な科目	令和2年度	令和元年度	伸び率(%)	増減額
経常収入 (①)	8兆2,956億円	8兆3,637億円	▲0.8	▲681億円
保険料収入	8兆1,841億円	8兆2,437億円	▲0.7	▲596億円
【再掲】新型コロナ特例猶予等未収分	273億円	-	-	-
経常支出 (②)	8兆4億円	8兆1,139億円	▲1.4	▲1,135億円
保険給付費	3兆9,065億円	4兆1,178億円	▲5.1	▲2,113億円
抛出金計	3兆5,457億円	3兆4,344億円	3.2	1,113億円
(再掲) 後期高齢者支援金	2兆61億円	1兆9,773億円	1.5	287億円
(再掲) 前期高齢者納付金	1兆5,390億円	1兆4,550億円	5.8	840億円
(再掲) 退職者給付抛出金	5億円	18億円	▲74.3	▲13億円
保健事業費	3,450億円	3,631億円	▲5.0	▲181億円
経常収支差 (①-②)	2,952億円	2,498億円	-	454億円

## 2. 令和2年度決算見込：基礎数値及び財政指標

- 被保険者数は、前年度比 11万9,579人増加（対前年度比0.7%）の 1,654万2,338人、また、被扶養者数は 21万1,254人減（同▲1.7%）の1,227万人2,907人、扶養率は 0.75（同▲0.01ポイント）となっている。
- 平均標準報酬月額及び平均標準賞与額はいずれも減少し、平均標準報酬月額は、前年度比2,042円減少（対前年度比▲0.5%）の37万6,142円、平均標準賞与額は、前年度比5万234円減少（同▲4.2%）の114万5,775円となっている。

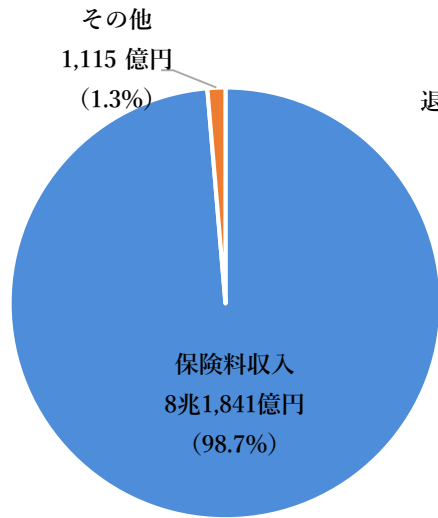
	令和2年度決算見込	令和元年度決算	伸び率(%)	増減額
組合数	1,388	1,388	-	-
被保険者数	1,654万2,338人	1,642万2,759人	0.7	11万9,579人
被扶養者数	1,227万2,907人	1,248万4,161人	▲1.7	▲21万1,254人
扶養率	0.75	0.76	-	▲0.01p
平均標準報酬月額	37万6,142円	37万8,185円	▲0.5	▲2,042円
平均標準賞与額	114万5,775円	119万6,009円	▲4.2	▲5万234円
平均保険料率（単純平均）	9.21%	9.22%	-	▲0.01p
実質保険料率（〃）	8.78%	8.80%	-	▲0.02p
特定保険料率（〃）	3.86%	3.81%	-	0.05p
前期高齢者数	95万6,385人	93万3,094人	2.5	2万3,291人
前期高齢者加入率	3.35%	3.27%	-	0.08p

注）保険料率（平均・実質）は各組合の保険料率を単純平均したものである。なお、料率には調整保険料率を含む（以下、同じ）。

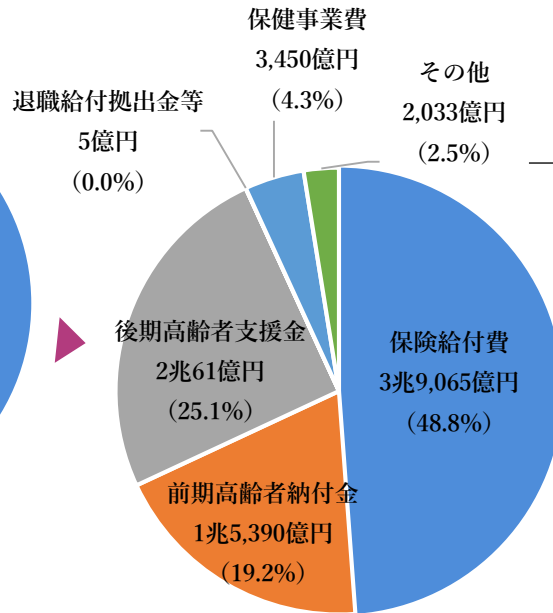
### 3. 令和2年度決算見込：経常収入・支出の内訳及び拠出金負担割合

- 経常収入では、総額8兆2,956億円のうち、保険料収入が8兆1,841億円で、全体の98.7%を占めている。
- 一方、経常支出では、総額8兆4億円のうち、①保険給付費：3兆9,065億円が最も多く、全体の48.8%を占め、次いで、②後期高齢者支援金：2兆61億円（構成比：25.1%）、③前期高齢者納付金：1兆5,390億円（構成比：19.2%）となっており、高齢者医療拠出金が経常支出全体の44.3%を占めている。
- また、義務的経費（法定給付費及び高齢者医療への拠出金）に占める拠出金負担割合は48.1%（※元年度：同46.0%）となり、同50.0%以上の組合は、組合全体の39.6%に当たる550組合となっている。

【経常収入】：8兆2,956億円



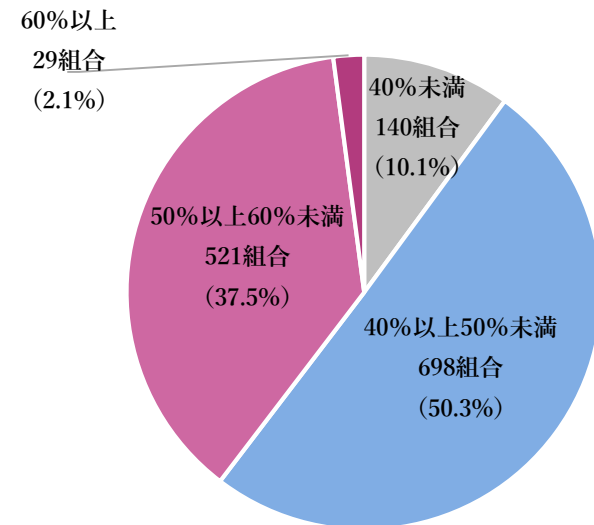
【経常支出】：8兆4億円



義務的経費①+②		7兆3,663億円	割合
①法定給付費		3兆8,207億円	51.9%
②拠出金総額		3兆5,457億円	48.1%
	後期高齢者支援金	2兆61億円	27.2%
	前期高齢者納付金等※	1兆5,396億円	20.9%

義務的経費に占める拠出金負担割合別組合数

【組合計負担割合：48.1%】



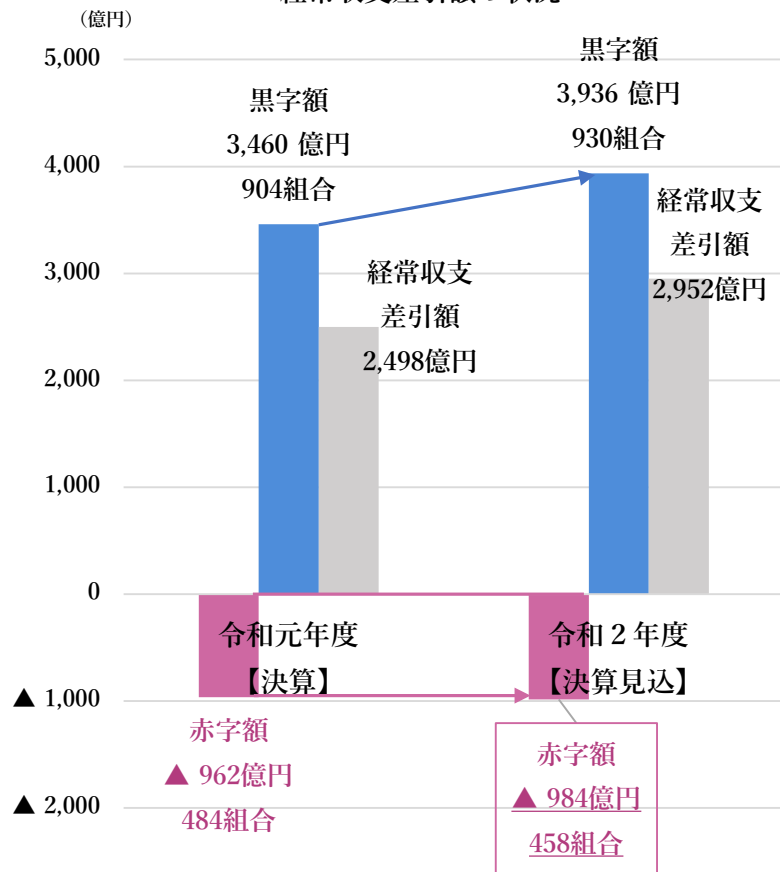
注1) 右の表中「前期高齢者納付金等」には、退職者給付拠出金、日雇拠出金、病床転換支援金を含む。

注2) 円グラフ中のカッコ内の数値は構成比である。

## 4. 黒字930組合／赤字458組合の経常収支差引額

- 黒字額が454億円増加した結果、赤字組合は26組合減少して458組合（構成比：33.0%）となったが、赤字組合の赤字総額は前年度に比べて22億円増え、▲984億円となった。
- 一方、黒字組合は26組合増えて930組合（構成比：67.0%）となり、黒字総額は3,936億円となった。

経常収支差引額の状況

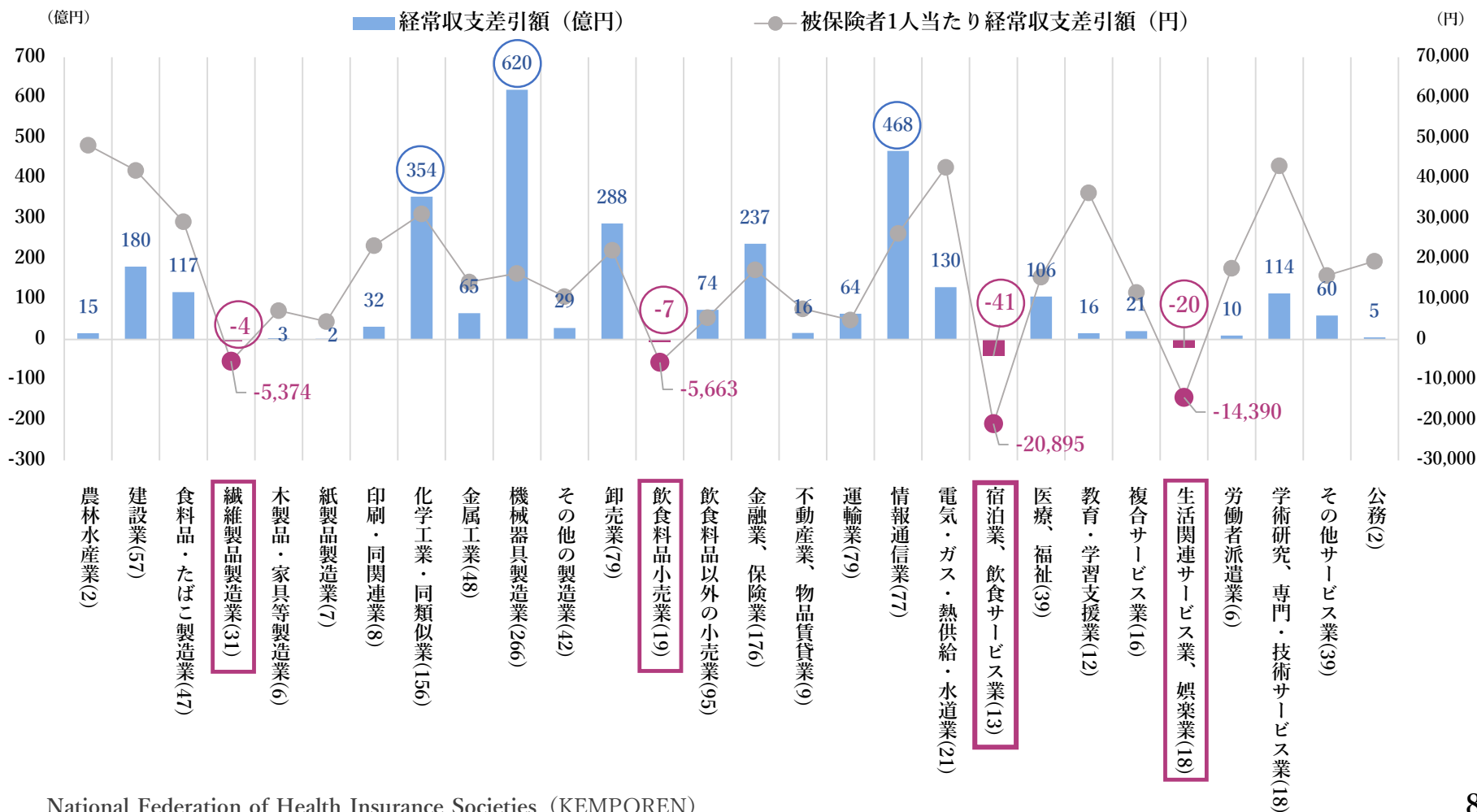


	令和2年度決算見込	令和元年度決算	対前年度差
経常収入 (①)	8兆2,956億円	8兆3,637億円	▲681億円
経常支出 (②)	8兆4億円	8兆1,139億円	▲1,135億円
経常収支差 (①-②)	2,952億円	2,498億円	454億円
赤字組合の赤字総額	▲984億円	▲962億円	▲22億円
赤字組合数	458組合	484組合	▲26組合
赤字組合の割合	33.0%	34.9%	▲1.9p
黒字組合の黒字総額	3,936億円	3,460億円	476億円
黒字組合数	930組合	904組合	26組合
黒字組合の割合	67.0%	65.1%	1.9 p

## 5. 業態別にみた経常収支差引額の状況

- 業態別に経常収支差引額をみると、差引額が赤字となっているのは「繊維製品製造業」・「飲食用品小売業」・「宿泊業、飲食サービス業」・「生活関連サービス業、娯楽業」の4業態で、①宿泊業、飲食サービス業：▲41億円が最も高く、次いで、②生活関連サービス業、娯楽業：▲20億円、③飲食用品小売業：▲7億円、④繊維製品製造業：▲4億円となっている。

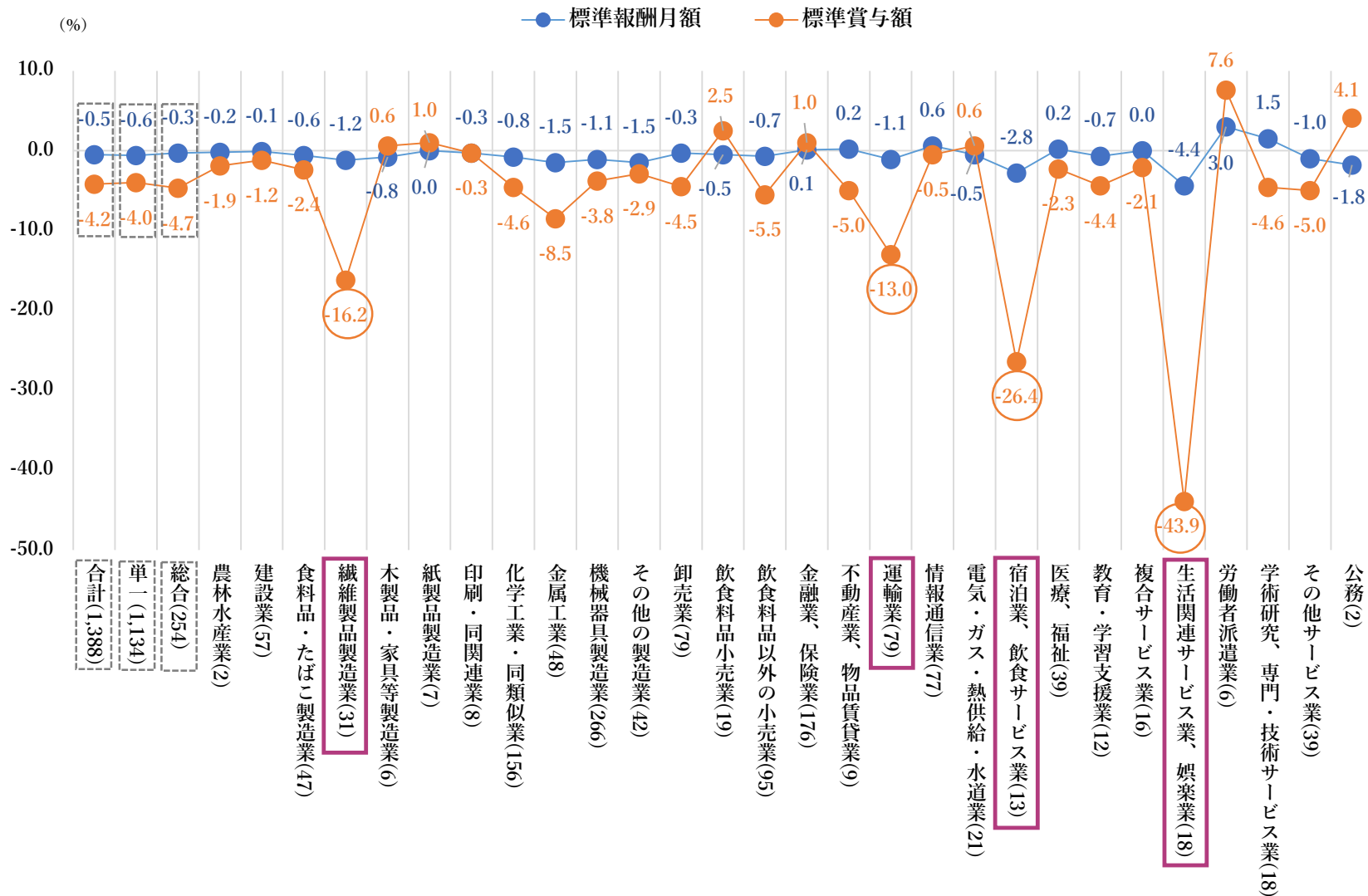
業態別 経常収支差引額





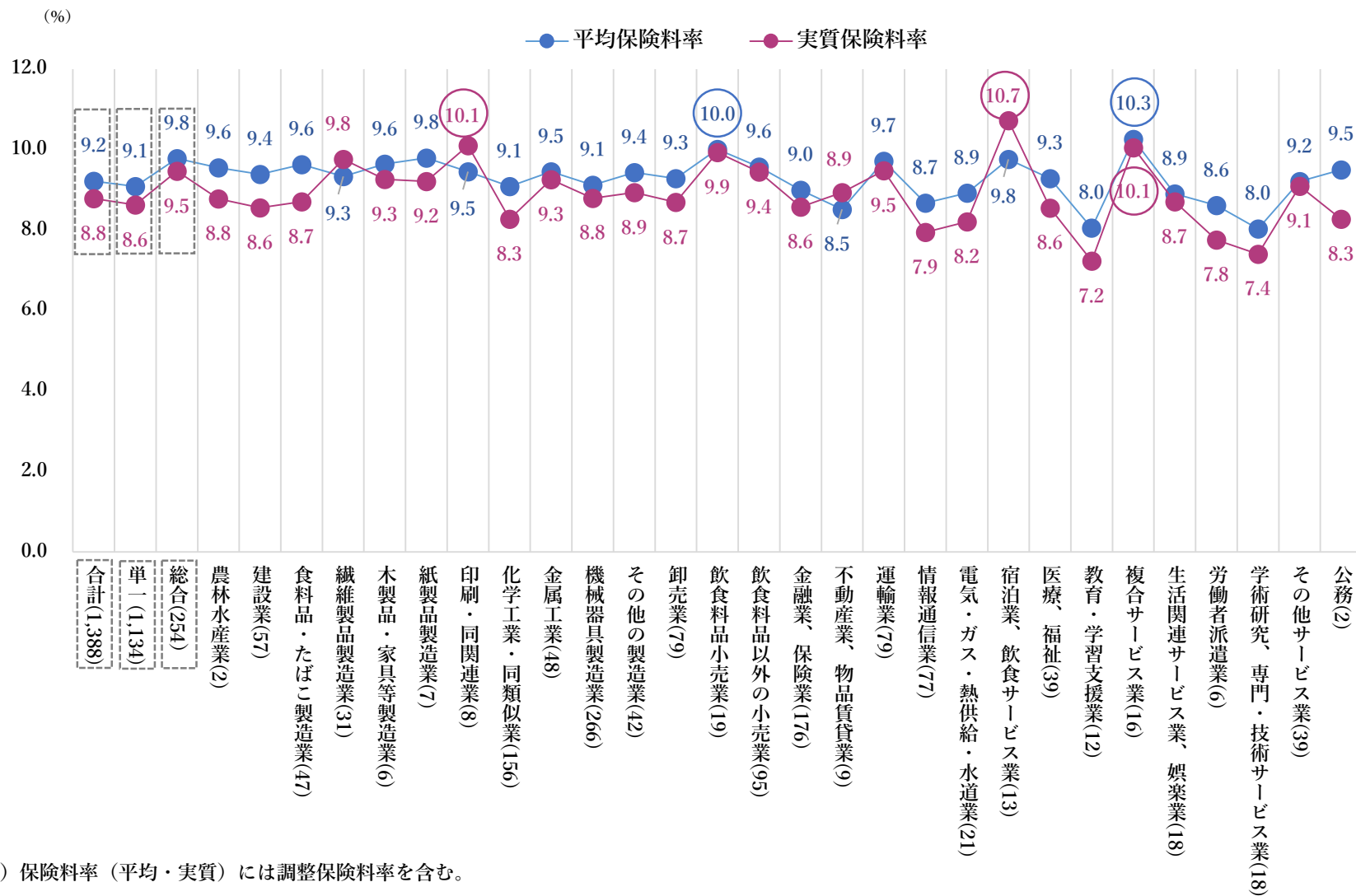
## 6. 業態別にみた標準報酬月額及び標準賞与額の伸び率

標準報酬月額及び標準賞与額の伸び率（単位：％）



# 【参考①】 業態別にみた平均保険料率及び実質保険料率

業態別 平均保険料率及び実質保険料率（単位：％）



注) 保険料率（平均・実質）には調整保険料率を含む。

## 【参考②】赤字かつ標準賞与額が大きく減少している業態の経常収支

	組合数	被保険者数	平均標準報酬月額	標準賞与額		保険料率		
				伸び率	伸び率	平均	実質	
繊維製品製造業	31組合	7万6,655人	29万8,466円	▲1.2%	63万694円	▲16.2%	9.33%	9.76%
宿泊業、飲食サービス業	13組合	19万7,271人	26万5,098円	▲2.8%	26万6,301円	▲26.4%	9.76%	10.72%
生活関連サービス、娯楽業	18組合	13万8,192人	32万8円	▲4.4%	42万7,188円	▲43.9%	8.90%	8.70%

	繊維製品製造業 (31組合)		宿泊業、飲食サービス業 (13組合)		生活関連サービス、娯楽業 (18組合)	
	決算見込額	伸び率(%)	決算見込額	伸び率(%)	決算見込額	伸び率(%)
経常収入 (①)	299億円	▲8.4	634億円	▲5.8	493億円	▲12.3
保険料収入	297億円	▲8.4	631億円	▲5.8	489億円	▲12.4
経常支出 (②)	303億円	▲3.3	676億円	1.5	513億円	▲2.5
保険給付費	146億円	▲9.6	343億円	▲2.2	247億円	▲3.9
拠出金計	133億円	4.6	296億円	6.9	225億円	▲1.0
(再掲) 後期高齢者支援金	70億円	▲2.9	157億円	4.4	142億円	3.1
(再掲) 前期高齢者納付金	63億円	14.6	139億円	9.9	83億円	▲7.1
経常収支差 (①-②)	▲4億円	-	▲41億円	-	▲20億円	-

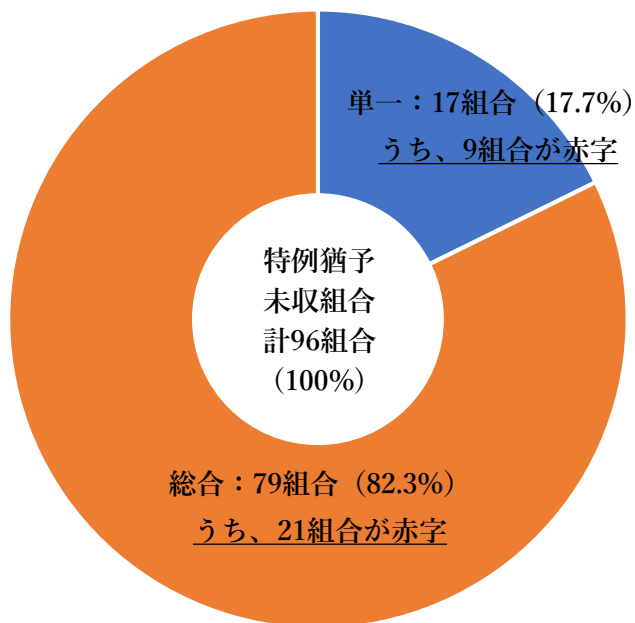
## II. 新型コロナ特例猶予組合の財政状況

1. 新型コロナ特例猶予組合数及び特例猶予等未収額の状況・・・・・・・・・・・・・・・・ p.13
2. 特例猶予のある赤字30組合の業態別標準報酬月額・標準賞与額の伸び率・・・・・・・・ p.14

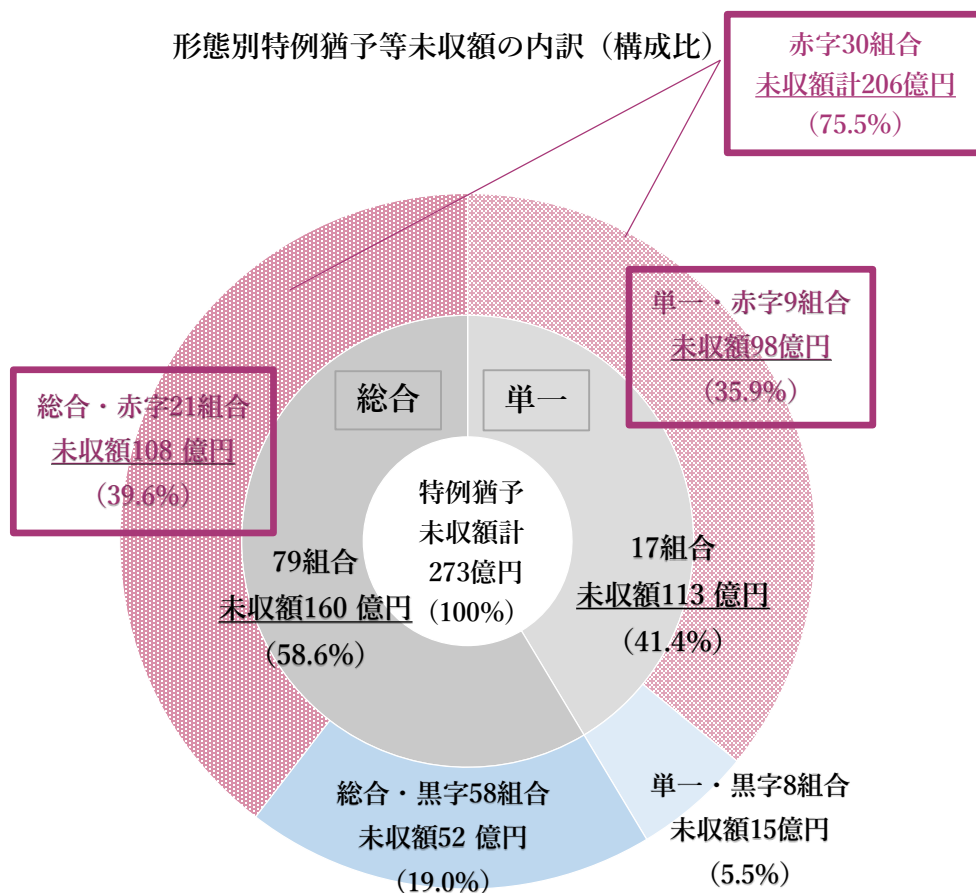
# 1. 新型コロナ特例猶予組合数及び特例猶予等未収額の状況

- 特例猶予96組合（令和3年3月末現在）を形態別にみると、単一：17組合、総合：79組合となっており、全体の8割が総合組合である。また、これら特例猶予組合のうち、赤字組合は単一：9組合、総合：21組合で、計30組合となっている。
- 特例猶予等未収分273億円を形態別にみると、単一17組合：113億円、総合79組合：160億円となっており、このうち特例猶予のある赤字30組合は、単一9組合：98億円（構成比35.9%）、総合21組合：108億円（同39.6%）と、全体の8割近くを占める206億円が赤字30組合における未収額となっている。

特例猶予組合（96組合）の形態別組合数（構成比）

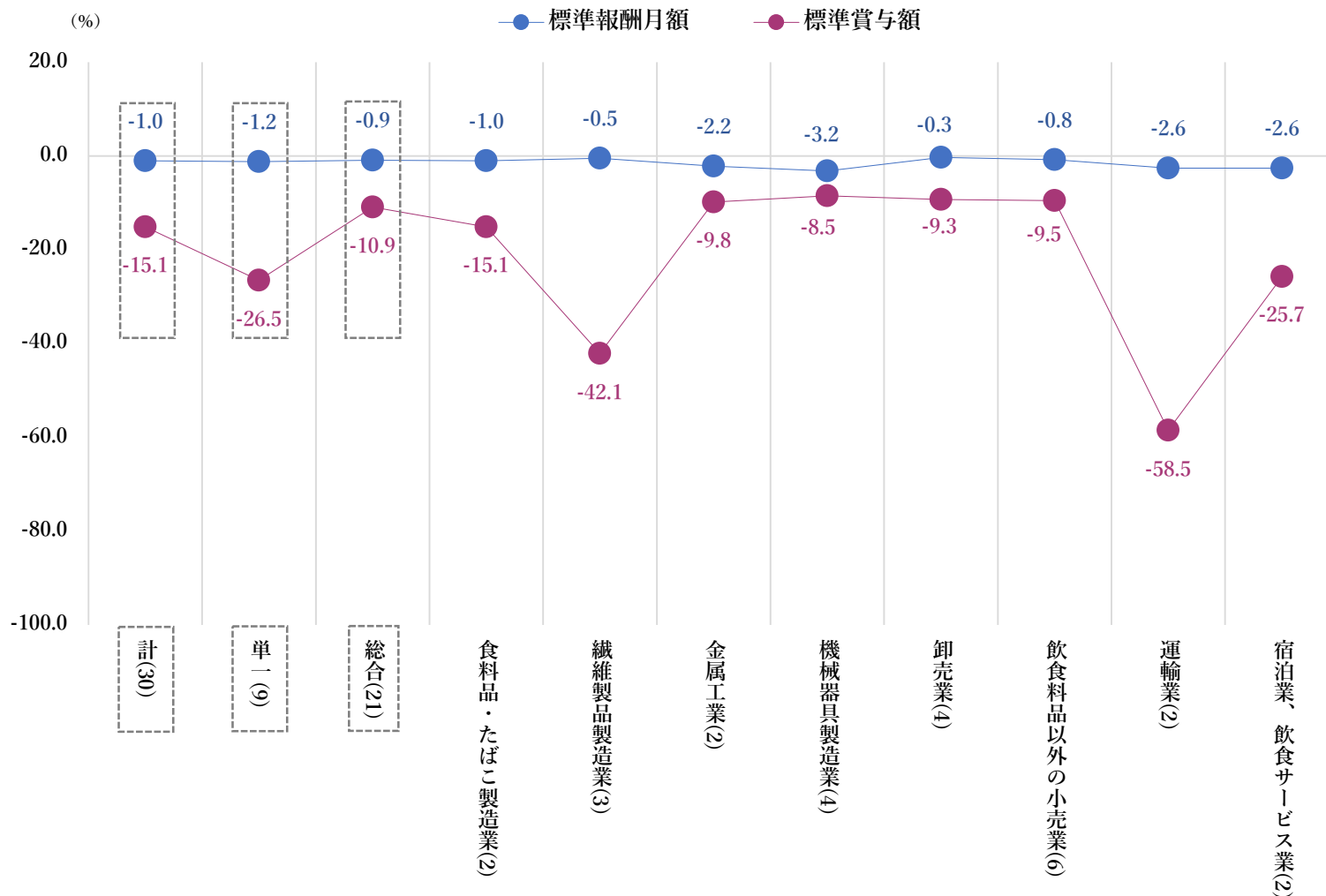


形態別特例猶予等未収額の内訳（構成比）



## 2. 特例猶予のある赤字30組合の業態別標準報酬月額・標準賞与額の伸び率

特例猶予のある赤字30組合の業態別標準報酬月額及び標準賞与額の対前年度比伸び率（％）



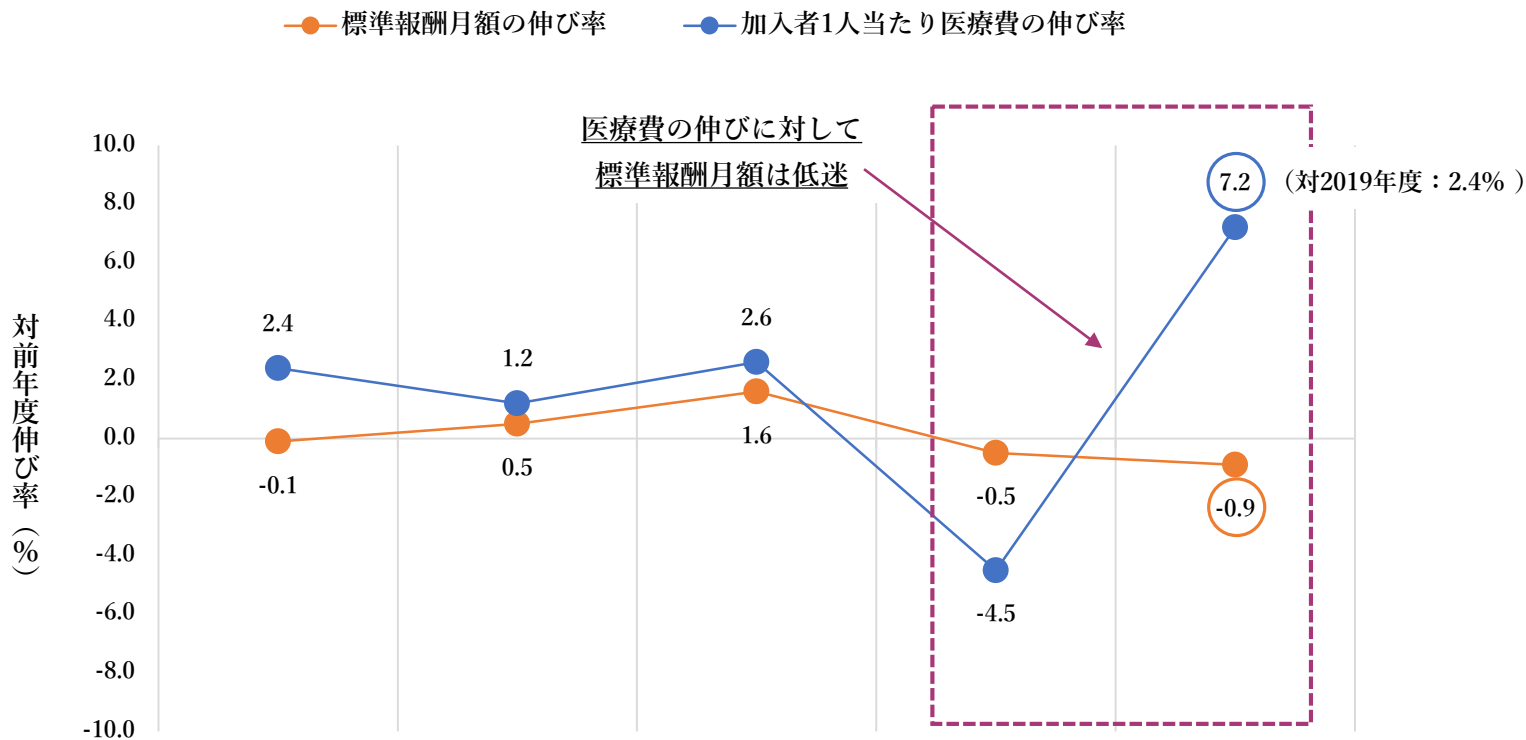
注) 統計処理の関係上、各業態の集計対象を「2組合以上」とし、当該業態に属する組合数が1組合のみの場合は除外している。

## 参考資料

- 【参考①】 標準報酬月額と医療費の動向：2017～2021年度（健保組合分）・・・p.16
- 【参考②】 令和3年度予算：経常収支の状況（令和3年4月22日公表資料）・・・p.17
- 【参考③】 令和3年度予算：経常収支差引額（黒字・赤字組合）の状況（〃）・・・p.18

# 【参考①】標準報酬月額と医療費の動向：2017～2021年度（健保組合分）

標準報酬月額の伸び率と医療費の伸び率の推移



年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
標準報酬月額（千円）	370	372	378	376	373
加入者1人当たり医療費（千円）	154	156	160	153	164

※標準報酬月額は、2019年度まで決算、2020年度は決算見込み、2021年度は予算。  
医療費は、2020年度までは実績、2021年度は4-7月の対前年伸び率の平均を2019年度実績に乗じて推計。



## 【参考②】 令和3年度予算（1,387組合）：経常収支の状況

- 令和3年度予算の経常収支は、①経常収入：8兆1,181億円（対前年度比▲2.7%）、②経常支出：8兆6,279億円（同0.6%）で、収支差引額（①-②）は、▲5,098億円の大幅な赤字となる見通しとなった。
- 赤字の主な要因は、保険料収入2,167億円、対前年度比▲2.6%の減少に加え、拠出金1,289億円、対前年度比3.6%の増加となったことによる。とくに前期高齢者納付金の伸びが著しく、対前年度比6.5%の1,007億円の増加となっている。
- なお、保険給付費は対前年度比▲1.5%の654億円減を見込み、保健事業費は前年度並みの4,409億円（同0.3%）を計上した。

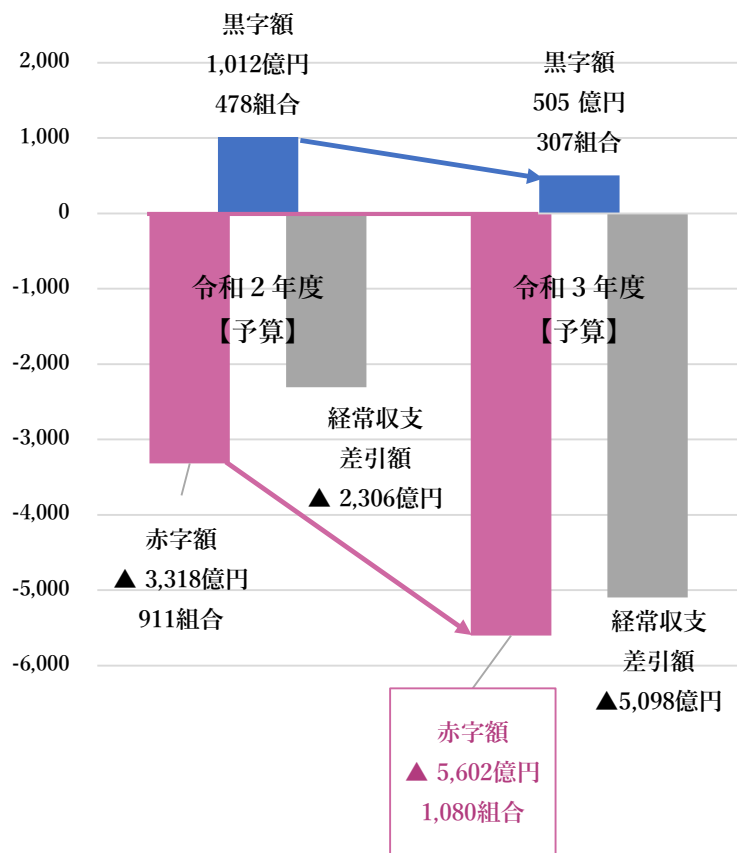
主な項目	令和3年度【予算】	伸び率 (対前年度予算比)	増減額	令和2年度【予算】
経常収入 (①)	8兆1,181億円	▲2.7%	▲2,242億円	8兆3,423億円
保険料収入	8兆60億円	▲2.6%	▲2,167億円	8兆2,227億円
経常支出 (②)	8兆6,279億円	0.6%	550億円	8兆5,729億円
保険給付費	4兆2,980億円	▲1.5%	▲654億円	4兆3,634億円
拠出金計	3兆6,627億円	3.6%	1,289億円	3兆5,338億円
後期高齢者支援金	2兆158億円	1.4%	287億円	1兆9,871億円
前期高齢者納付金	1兆6,467億円	6.5%	1,007億円	1兆5,460億円
退職者給付拠出金	1億円	▲85.7%	▲6億円	7億円
保健事業費	4,409億円	0.3%	15億円	4,394億円
経常収支差引額 (①-②)	▲5,098億円		▲2,792億円	▲2,306億円

注) 本内容は令和3年4月22日付けで公表したもの。なお、本数値は本会へ報告のあった1,330組合の数値をもとに、同3年4月1日時点で存在する1,387組合の予算編成状況を推計したものである（以下、同じ）。

## 【参考③】令和3年度予算：経常収支差引額（黒字・赤字組合）の状況

- 赤字額が2,792億円増加した結果、赤字組合は、前年度に比べ169組合増加して1,080組合（構成比：77.9%）となり、赤字組合の赤字総額は前年度に比べ2,284億円増加し、▲5,602億円となる見通し。
- 一方、黒字組合は、前年度に比べ171組合減少して307組合（構成比：22.1%）となり、黒字総額は507億円減の505億円となっている。

経常収支差引額の状況



	令和3年度【予算】	令和2年度【予算】	対前年度差
経常収入 (①)	8兆1,181億円	8兆3,423億円	▲2,242億円
経常支出 (②)	8兆6,279億円	8兆5,729億円	550億円
経常収支差 (①-②)	▲5,098億円	▲2,306億円	▲2,792億円
赤字組合の赤字総額	▲5,602億円	▲3,318億円	▲2,284億円
赤字組合数	1,080組合	911組合	169組合
赤字組合の割合	77.9%	65.6%	12.3p
黒字組合の黒字総額	505億円	1,012億円	▲507億円
黒字組合数	307組合	478組合	▲171組合
黒字組合の割合	22.1%	34.4%	▲12.3p